

旅行通信

Wing Travel Daily

発行所 航空新聞社：日刊旅行通信編集部編
 〒107-0052 東京都港区赤坂4-8-6 赤坂余湖ビル3階
 TEL(03)3796-6646 FAX(03)3796-6645
<http://wingnews.net> <mailto:mail@wingnews.net>
 購読料 半年33,600円 年間63,000円(消費税含む)

【トップニュース】

★2012年日本人海外旅行、中国への観光目的14%減 韓国と台湾が過去最高、香港・マカオは後半失速

2012年の日本人海外渡航者数は過去最高の1849万人(法務省速報値)を記録したが、中国や韓国など東アジア方面の2012年1-12月の数字が出揃った。まず中国は、2012年累計が前年比3.8%減の351万8200人。前半(1-6月)は前年同期比で約12%増と好調な出足だったが、尖閣問題が表面化してきた7月以降は大きく落ち込み、後半(7-12月)は同17.5%減となった。

中国への日本人の動きを属性別に見ると、男性は前年比3.6%減の270万4900人だったのに対し、女性は4.7%減の81万3300人。年齢層別では、45歳~64歳(151万7600人)が同4.8%減と最もマイナス幅が大きく、次いで25歳~44歳(139万2200人)が同4.6%減だった。一方で65歳以上のシニア層(35万3200人)は同0.3%増と前年並みを維持、15歳~24歳の若年層(13万7400人)は同4.2%増とプラスで推移した。

渡航目的別では、「会議・商務」が同6.8%減の88万8800人だったのに対し、「観光・休暇」が同14.3%減の79万4700人とマイナス幅が大きく、尖閣問題が観光に与えた打撃の大きさを示している。なお、2012年に中国を訪れた外国人客数は、全方面合計で前年比0.3%増の2719万1600人。日本のほか、韓国(406万9900人/前年比2.8%減)、ロシア(242万6200人/同4.3%減)がマイナス。アメリカ(211万8100人/0.1%増)も前年並みだった。

韓国インバウンドは全体で初の1000万人台に

韓国への2012年日本人渡航者数は、1-12月累計で前年比7.0%増の351万8792となり、過去最高を記録した。竹島問題が生じた後半(7-12月)は前年同期比10.1%減とマイナスだったが、前半(1-6月)の貯金が同30.2%増と大きかったことが寄与した。ただ、12月単月はまだ前年同月を24%下回っており、今年の数字への影響が懸念される。

訪韓日本人の男女別の動きでは、男性が前年比5.5%増の142万2896人、女性が同7.8%増の205万5135人の内訳。

2012年の訪韓外国人市場の動きは、全体で前年比13.7%増の1114万28人となり、韓国のインバウンド史上初の年間1000万人台に乗った。日本人は訪韓外国人シェアで31.6%占め1位だったが、2位の中国は283万6892人(27.8%増)と急伸。このほか、台湾が54万8233人(28.0%増)、香港が36万27人(28.2%増)、タイが38万7411(25.3%増)、シンガポールが15万4073人(23.7%増)など、各方面で数字を伸ばしている。

訪台日本人は2年連続過去最高、全体700万人超

2012年の台湾は好調に動き、1-12月累計の訪台日本人は前

年比11.0%増の144万2676人(国籍別)を記録し、過去最高を更新。海外にいる日本人の訪台客を除いた居住地別の集計(純粋な日台間の動き)では、同10.6%増の143万2315人だった。訪台日本人の過去最高の更新は2年連続。2012年は尖閣問題の余波を受けて後半やや落ち込んだものの、それを乗り越えて躍進した。

台湾観光協会のまとめによると、2012年訪台日本人のうち男性が10.4%増、女性が11.1%増となり、目的別では観光目的が14.9%増、業務渡航が2.2%増だった。台湾はインバウンド全体が好調で、年間の外国人受入客数は前年比20.1%増の731万1470人となり、初めて700万人台を突破した。

香港は全体好調、マカオは日本人の空路利用拡大

一方、香港とマカオへの2012年の動きは、香港が前年比3.3%減の125万4602人、マカオがほぼ増減なしの39万5989人だった。香港・マカオともに前半は好調に推移していたものの、中国との尖閣問題が生じた10月以降は落ち込み、前年を上回る数字には達しなかった。

香港政府観光局のまとめによると、2012年の香港インバウンド市場全体は前年比16.0%増の4861万5113人を記録し、なかでも中国本土からの訪問者が同24.2%増の3491万1395人と大きく伸びた。全渡航者のうち、香港に1泊以上した宿泊客のシェアは48.9%で2377万人(前年比6.5%増)。2012年の観光消費額は同16.5%増の3065億香港ドル(約3兆6780億円)に達すると試算している。

また、マカオ政府観光局のまとめによると、2012年の日本人訪問者数のうち、香港からの高速フェリーを使った海路経由が31万2649人(前年比0.3%減)、日本からの直行便などを使った空路経由が4万2185人(20.1%増)となり、空路のシェアが徐々に高まりつつある。

ちなみに、2012年のマカオ外国人訪問者数(中国本土含む)は前年比0.3%増の2808万2292人。このうち中国本土からの訪問者は同0.3%増の2735万6924人(シェア97.4%)を占めた。市場別では、韓国からの訪問者が前年比11.5%増の44万4773人と好調だったほか、タイが同17.8%増の23万1295人と大きく伸びている。

なお、2012年の東南アジアやリゾート(ハワイ、グアムなど)方面の動きは、各国・地域の統計が出揃い次第掲載する。

★デルタ航空、羽田-シアトル線を6月1日就航 米運輸省認可、シアトルを新たなゲートウェイに

羽田-米国線のスロットの割当を検討していた米運輸省は現地時間の2月5日、デルタ航空(DAL)に羽田-シアトル線の開設を認可することを正式に決定した。これを受けて、DALは羽田-シアトル線の当初の3月30日就航から3カ月遅らせ、6月1日に就航する予定であることを明らかにした。

米運輸省はDALの羽田-シアトル線開設を昨年11月15日に仮認可していたが、ユナイテッド航空(UAL)とアメリカン航

週刊ウイングトラベル ハワイ特集2013

HAWAIIAN
 TRAVEL

PDFデータのダウンロードはこちらをクリック

<http://wingnews.net/t-daily/data2013/WTHawaii2013.pdf> (PDF:約30MB)

空(AAL)の反対表明の意見書を踏まえて正式に決定した。

元々DALが運航していた羽田-デトロイト線をシアトル線に振替申請したことを発端に、米系航空各社が新たに路線申請し、米運輸省の裁定に至ったもので、DALの優先権益がそのまま認められたことになった。

米運輸省は、DALが提案した羽田-シアトル線の運航により、シアトルが新たな西海岸のゲートウェイとなり、米国西部各都市へのワンストップ・サービスの拡充を評価した。

今回の羽田-シアトル線の正式に決定に際して、米運輸省はUALの羽田-サンフランシスコ線に触れた。米運輸省はUALの「サンフランシスコにはシアトルの3倍の利用者規模がある」という「市場規模の優位性」によりサービスが拡大することを認めた上で、羽田直便の限られた枠のなかで、旅行者はAALによるJALのコードシェア便を通してサンフランシスコの接続サービスを受けており、それよりもDALの羽田-シアトル直便の運航による新しい米国のゲートウェイをつくることの方が、サンフランシスコで2番目の直便を加える利益より重いとの結論を下した。

DALではアラスカ航空との提携で、シアトル空港の路線拡大を図っている。羽田-シアトル線の開設で、DALのシアトル発着のアジア路線は成田、羽田、関空、上海、北京となる。

【旅行関連】

★東武第3四半期、スカイツリー効果が絶大 レジャー事業は営業利益80億円、一転大幅黒字

東武鉄道が発表した2013年3月期の第3四半期連結決算によると、「レジャー事業」は、東京スカイツリーの開業をはじめ、オフィシャルホテルの増収効果や、震災からの反動増もあり、営業収益は前年同期比26.6%増の559億4500万円、営業利益は80億3500万円を計上して黒字に転換した。前年同期は、3億9900万円の営業損失だった。

レジャー業のなかには、東武動物公園などの遊園地・観光業や、スポーツ業、旅行業、飲食業、スカイツリー業などがあ

る。このうち、旅行業では、東武トラベルが東京スカイツリー開業に合わせ、東武ホテルグループとタイアップした東京スカイツリー入場券付宿泊プランや、スカイツリー周辺の散策と下町の魅力を盛り込んだ「東京スカイツリー&下町散策クーポン」を販売し、増収に努めた。

ホテル業でも、3つの東京スカイツリーオフィシャルホテルで、東京スカイツリー展望デッキ入場券引換券付の宿泊プランを販売し、多くの顧客が利用した。また、東武ホテルレバント東京も、客室やレストラン等のリニューアルが奏功して好調だった。

スカイツリー業では、秋の行楽シーズンからクリスマスにかけて、各種イベントや限定ライティングを実施し、集客に努めた。その結果、東京スカイツリーは12月末までに約401万人が来場した。

この結果、東武鉄道グループ全体の第3四半期連結決算も、増収増益を達成。営業収益は7.0%増の4266億6400万円、営業利益は60.5%増の401億1200万円、経常利益は67.0%増の348億4200万円、四半期純利益は78.4%増の206億1600万円だった。

★京成第3四半期、レジャーサービス業の営業利益改善

京成電鉄が発表した2013年3月期の第3四半期連結決算によると、「レジャー・サービス業」の営業収益は、前年同期比0.1%増の77億6400万円となり、営業利益は3億4100万円へと改善した。

旅行業では、新しい商品の企画・催行により、営業力の強化を図った。

ホテル業では、京成ホテルミラマーレで開業10周年記念の各種イベントを実施するなど、新規顧客の獲得に努めた。

★旅行サイトで情報収集が過半数、旅行会社は2割 インターワイヤード調査、口コミ参考は3割

インターワイヤードが実施した「旅行」に関するアンケート調査によると、旅行に行く時の情報収集は、「旅行情報サイト」が52.7%で過半数だったものの、旅行雑誌やテレビ番組も4割前後と多く、「旅行代理店」も2割の人が挙げたことがわかった。また、掲示板などの口コミサイトや、友人や家族などの口コミを参考にすると答えた人がそれぞれ3割おり、口コミを重視する傾向も強まりつつあるようだ。

この調査は、2012年10月31日～11月16日まで、インターネット調査を行ったもので、モニター4610人から回答を得た。

「旅行」が好きかとの問いには、3人に1人が「非常に好き」と回答、「まあ好き」と合わせると78.5%が好きと回答した。また、実際に旅行に行く予定がある・行こうと思っている人は23.0%に留まる一方で、「機会があれば行きたい」は55.6%に達しており、この「機会があれば」と考えている人を如何に旅行に行かせるかがカギを握っている。

旅行に行きたい場所については(複数回答)、北海道(52.7%)が最多で、沖縄(45.0%)、九州(40.3%)、ヨーロッパ(37.4%)、ハワイ(30.7%)と続いた。

そのうち、最も行きたい場所を聞いたところ、最多回答はやはり北海道(14.3%)で、ヨーロッパ(13.5%)、沖縄(11.7%)、ハワイ(7.2%)、九州(6.2%)と続いた。

友人や恋人との旅行より「一人旅」を希望

誰と旅行に行きたいかでは、「家族と」が43.4%と最多で、「配偶者と」が40.1%、「一人で」が26.5%、「友人と」が25.2%、「恋人・好きな人と」が13.6%だった。友人や恋人との旅行より、一人旅の方が人気が高いのは興味深い。

理想の旅行期間は、「1週間程度」が31.3%で最も多かったが、現実的に可能なのは「3日程度」が51.5%と過半数を占めた。

旅先で期待するのは、「その土地の食べ物」や「その土地の観光地や名所」が約7割で最も多く、これに「リフレッシュ・気分転換」や「旅先でのやすらぎ」「のんびり」などが続いた。

また、旅行先でのお土産については、「近所の人」にはお土産は買わないとの回答が51.5%を占めたが、約半数の人は近所にお土産を買っていることを示している。最も買うのは家族へのお土産で、約85%の人が買うと回答した。



なお、旅行に行きたい場所(複数回答)のランキングは以下の通り。国内、海外のトップ5をそれぞれ記載。

【国内旅行】

- ▼1位 北海道(52.7%)
- ▼2位 沖縄(45.0%)
- ▼3位 九州(40.3%)
- ▼4位 伊豆・箱根(29.3%)
- ▼5位 近畿(28.4%)

【海外旅行】

- ▼1位 ヨーロッパ(37.4%)
- ▼2位 ハワイ(30.7%)
- ▼3位 オセアニア・南太平洋(21.8%)
- ▼4位 北米(アメリカ・カナダ)(19.9%)
- ▼5位 グアム・サイパン(19.3%)

★HIS×リラックマ ビーチリゾートキャンペーン 特製の防水携帯ケースプレゼント、特典も

エイチ・アイ・エス(HIS)東日本地区では、パッケージブランド「Ciao」で、ビーチリゾート方面を対象とした「HIS×リラックマ ビーチリゾートキャンペーン」を、2月1日より東日本地区全店舗で開始した。キャンペーン対象商品に成約すると、HIS特製「アロハリラクマ」デザインの防水携帯ケースをプレゼントする。

また、ハワイでは、リラックマと過ごすハワイ旅として、「リラックマ ごゆるりハワイプラン」を設定。宿泊ホテルの部屋をリラックマ、コリラックマ、キイトイトリの可愛いキャラクターが出迎えるほか、ツアーの参加特典としてHISオリジナルデザインのリラクマトートバッグなどをプレゼントする。

「リラックマ」は、サンエックスのオリジナルキャラクターで、今年10周年を迎える。記念すべきアニバーサリーイヤーの第一弾シリーズとして、究極のリラックスをイメージした最新作『アロハリラクマ』デザインが登場する。

「HIS×リラックマ ビーチリゾートキャンペーン」の期間は、2月1日～4月9日の新規予約分、出発対象期間は2月1日～5月6日出発分、在庫がなくなり次第終了する。対象方面は、ハワイ、ハワイアイランド、グアム・サイパン、南太平洋、モルディブ、バリ島、フィリピン、マレーシア、タイリゾート、ハイナン島(中国)の全11方面。

なお、HIS関西地区でも2月10日より、先着5000名で同様のキャンペーンを実施する。

★JTBグループ、羽田にOKI製外貨自動両替機設置 世界初、円と外貨の双方向で両替可に

JTBグループで金融決済事業などを手掛けるJTBビジネスイノベーターズは、2月1日正午から、東京モノレール羽田国際線ビル駅構内に、複数通貨を双方向で両替可能な外貨自動両替機を2台設置し、運用を開始した。

沖電気工業(OKI)が製造したもので、日本円と外貨の双方向で両替が可能な自動両替機は世界初。まずはUSドルとユーロの取扱から始める。

日本円から外貨への両替と、外貨から日本への両替が1台でできる。取扱金額は下限10ドル～上限10万円相当。今後も駅や商業施設に設置場所を拡大する計画。

★「東京マラソン2013」で臨時観光案内所を開設 東京都、周辺みどころマップも日英8.5万部配布

東京都は、「東京マラソン2013」の開催に合わせ、国内外からの来訪者に食、文化、景観など、東京の観光魅力を紹介する「臨時観光案内所」を2カ所開設する。

一つは、東京ビッグサイト西1・2ホールを活用した「東京マラソンEXPO 2013会場」。2月21日～23日までの3日間、11時～21時まで(最終日は20時まで)、外国語対応できる観光ボランティアガイドによる観光情報の案内を行うほか、「東京マラソン2013みどころマップ」などの各種パンフレットの配布、映像による東京の魅力ある観光地紹介などを行う。

もう一つは、有明イーストプロムナードに開設する「東京マラソンフィニッシュ会場」。こちらは2月24日の10時30分～16時30分まで、外国語対応できる観光ボランティアガイドによる案内や、観光パンフレットの配布を行う。

「東京マラソン2013みどころマップ」は、東京マラソンのコース周辺の観光スポットなどを紹介した冊子で、マラソン観戦の方などに無料配布する。配布場所は、都庁や羽田空港などにある東京観光情報センターや、東京観光案内窓口(105カ所)、臨時観光案内所など。配布部数は、日本語版7万部、英語版1万5000部。

★酒々井プレミアム・アウトレット、4月19日開業 外国人も積極誘致、外貨両替所や銀聯決済も

チェルシージャパンは、千葉県印旛郡酒々井町で開発している『酒々井(しずい)プレミアム・アウトレット』を、4月19日にグランドオープンすると発表した。国内アウトレット初出店の8店舗を含む121店舗が出店し、プレミアム・アウトレット開業時としては最大の店舗数でオープンする。

東関東自動車道に新設される酒々井インターチェンジ(2013年4月10日開通)を利用すると、都内から車で約50分でアクセス可能で、開業時より東京駅から高速路線バスも運行する。また、JRおよび京成酒々井駅からも路線バスが運行される。

フードコートでは、千葉県の特産物を使用した限定メニューなども提供されるほか、酒々井町役場による観光スポット情報を発信するセンターも設置される。

また、旅行会社やバス会社にも働きかけ、千葉県の観光スポットを巡るバスツアーの誘致も行うなど、集客活動を展開するとしている。

また、「酒々井プレミアム・アウトレット」は、成田空港から車で約10分の立地にあり、アジア圏をはじめとする外国人旅行者向けのサービスを展開する。アウトレットとしては日本初となる外貨両替所(京葉銀行)を開設するほか、成田空港からの航空便情報を案内するフライトインフォメーションを設置する。インフォメーションセンターでは、英語・中国語対応可能なスタッフを配置し、英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語表記の多言語マップも用意する。

また、プレミアム・アウトレットとして初めて、場内一部エリアで、訪日外国人を対象に公衆無線LANサービスを無料提供する。

このほか、フードコート内には、プレミアム・アウトレットとして初めて、予約制の団体客専用ルームを設け、団体観光客への対応も可能とする。さらに店舗では、銀聯カード決済端末を一斉導入するほか、一部店舗で免税対応を実施する。また、東京駅および成田国際空港と酒々井プレミアム・アウトレットを結ぶ路線バスを運行することで、アクセスをより便利



にし、積極的に訪日外国人の誘致も行う。

同社では、今回の「酒々井プレミアム・アウトレット」の開業により、富士山・箱根に近く日本一の利用者数を誇る「御殿場プレミアム・アウトレット」、大阪・京都・奈良をはじめ関西エリア観光の窓口であり関空に近接する「りんくうプレミアム・アウトレット」と合わせて、訪日外国人に人気のゴールデンルート上に「プレミアム・アウトレット」拠点網が完成するとしている。

【航空関連】

★運輸安全委、787バッテリー・セルに熱暴走確認 セル正極集電体に溶断確認、内部に大量電流流れた可能性も

運輸安全委員会の後藤昇弘委員長は2月5日に記者会見を開き、高松空港に緊急着陸した全日空(ANA)の787型機のメインバッテリーに関するこれまでの調査結果を公表、メインバッテリー・セルは「すべてに損傷がみられ、熱暴走がみられた」ことを明らかにした。全8個あるバッテリー・セル全てに熱による損傷があって、なかでも6個のセルのプラス電極(正極)内部の集電体(アルミ製)に溶断が確認された。後藤委員長は「(集電体の)溶断は、大きな電流が流れたことが可能性の一つとして考えられる」と可能性を示唆したが、「今の段階では何も確定的なことを申し上げることはできない」と話した。

バッテリー・セルには直接繋がっていないものの、バッテリー・セル等を納めている筐体に静電気が溜まることを防ぐ金属製のアース線が、大量の電流が流れたことが原因とみられる損傷を受けて断線していたことが確認された。

なお、運輸安全委員会はバッテリー・セルの損傷状況をさらに詳細に調べる予定。具体的にセルを分解して内部損傷をさらに詳しく調べる。また、飛行記録装置のデータ解析やバッテリー充電器などの機器調査を進めて原因究明を進める。

その他にも、損傷を受けていたコンタクトと、ほとんど損傷はみられなかったもののバッテリー・ダイオード・モジュールをフランス製造メーカーに送ってフランスの事故調査委員会BEA立ち会いの下で調査する。

また、米運輸安全委員会(NTSB)はボストン・ローガン空港で日本航空(JAL)787型機のAPUバッテリー調査を進めているが、その調査の報告のなかで、バッテリーから熱暴走のほか、発火、短絡(ショート)を起こした痕跡があったことを公表しているが、今回運輸安全委員会が明らかにしたANA機の調査報告のなかでは、今のところ発火やショートを起こしたことを示す証拠はみつかっていないという。現在GSユアサで進めているバッテリー・セルの分解作業等において、そうした可能性がないかなど、さらに詳細に調査を進めていく。

★北海道庁、国際線補助金を道内全13空港に拡大 1社1路線制限も見直し、新規路線開設を促進

北海道庁空港活性化推進室は現在、新千歳空港発着の国際線を運航している航空会社に補助金を交付しているが、2013年度から対象空港を道内の全13空港に拡大することを検討している。現在の1社1路線制限も見直し、航空会社の新規国際路線開設を促す。

補助金の交付額は現在、1着陸あたり大型機が30万円、中・小型機が15万円と設定している。13年度からは新千歳以外の道内空港に離発着する航空会社にも、同額の補助金を交付する。ただし、その分対象期間を現在の3年から1年に短縮する。

補助金の適用路線はあくまで新路線に限定、すでに他社が乗り入れている路線は適用範囲外とする。道庁担当者によれば、今回の補助施策はインバウンド/アウトバウンドの拡大のみを狙ったものではなく、北海道からのネットワークの充実化に重点を置いたものということ。2航空が同じ路線の開設を申請した場合には、補助対象は乗り入れ先着順で決める。

道内の新千歳以外の空港には昨年、エバー航空やトランスアジア(復興)航空などが相次いで路線を開設している。さらに新千歳にもタイ国際航空やハワイアン航空が新規路線を開設しており、道内からの海外ネットワークは年々堅調に拡大している。補助金適用範囲を拡大することで、2013年度も北海道からの新規路線開設が進みそうだ。

★AAL、新塗装の777-300ER運航開始 ダラスーサンパウロ間、初の国際機内WiFiも

アメリカン航空(AAL)の新機材B777-300ER型機が、1月31日からダラスーサンパウロ間で運航を開始した。先日発表した新塗装が施された、新生AALの象徴的機材。AALでは今回の就航について、「先進的な機材の配備と優れた燃料効率の実現を目指すAALにとって重要な節目になるもの」とコメントしている。同機材は今後2014年末までに合計15機を受領、2機目はダラスーニューヨークJFK線に就航の予定。

同機材には、AAL初の国際対応型機内WiFiサービスを導入した。WiFiは有料だが、3月末日までは無料で提供する。さらに全ての座席に充電用の110VのACコンセントおよびUSBジャックを設定した。

このほか同機材の機内には、ファーストクラスとビジネスクラスの客室に全席通路に面したライフラットベッドシートを設定。軽食やドリンクを備えたバーも設置した。

さらに全客室の座席に最新の機内エンターテインメントシステムを装備。映画は約250本、テレビ番組180以上、音楽チャンネル350以上のプログラムを提供する。

なお、777-300ERの初便は、現地時間1月31日夕刻にダラスを出発、2月1日午前にサンパウロに無事に到着した。

【観光統計】

★ドバイ12年第3四半期、日本人宿泊者数40%増 5年ぶり3期連続増加、1万7251人

ドバイ政府観光・事務局は、2012年第3四半期(7-9月)のドバイの日本人宿泊者数が、前年同期比40%増の1万7251人を記録したと発表した。第1四半期に25%増、第2四半期に26%増を記録するなど、元々好調に推移していた日本人宿泊者数だが、第3四半期に入りさらに勢いが増した。3期連続での増加は、2007年以来5年ぶりの記録になる。

政観では日本人宿泊者数好調の背景について、現地の世界最高層のビル「バージュ・カリファ」や、大型イベントなど、現地の情報が日本国内のメディアで取り上げられたことが影響したものと分析している。

なお、同政観では、2月19日から東京、大阪でMICE市場に特化したセミナー&ワークショップを開催する。毎年恒例の大阪、福岡、東京でのセミナーも3月11日から順次開催していく。

【デスティネーション】



★シカゴが日本人“観光客”の誘致へ活動本格化 2020年5000万人計画始動、日本を海外主力市場に

米国シカゴが“観光”目的の日本人誘致に力を入れる。ビジネスの目的地としてのイメージが強いが、多彩なアクティビティや上質なホテル滞在、日本から充実したアクセスなどの魅力を前面に打ち出し、レジャー需要の拡大に取り組む。シカゴ観光局は昨年8月に日本事務局を開設、今年1月から本格的に活動を開始し、旅行業界と消費者の双方に働きかける態勢を整えた。今後、旅行商品の造成促進やメディア露出の強化に取り組む、“観光地シカゴ”のイメージ定着をめざす。

日本事務所開設後、業界向けパンフレットやセールスマニュアルなどを作成、観光局の公式ホームページも開設した。2011年時点では、シカゴを訪れる日本人の数は年間約8万8000人。ただ、そのほとんどがビジネス客やオヘア国際空港のトランジット客と見られ、純粋に観光目的でシカゴを訪れる日本人は一部に限られている。来日したシカゴ観光局のドン・ウエルシュ社長兼最高経営責任者も、「名前はよく知られているが、何ができるのかはほとんど知られていない」と現状認識を示す。

同観光局が観光誘致に乗り出した背景には、シカゴ市が2010年に策定した観光促進のためのアクションプランがある。同市では、2020年までに米国内を含め年間5000万人の訪問者を誘致する目標を設定、同時に、海外からの訪問者数を全米5位以内に引き上げる方針も定めた。2010年時点でシカゴ訪問者数は年間約3900万人だったが、2011年には約4100万人に拡大、2012年は推計4500万人に達すると見ている。

観光客誘致に向け、シカゴ市では2013年度の観光促進予算に2769万ドル(約25億円)を計上。この資金を使い、シカゴ観光局は日本をはじめ英国、ドイツ、ブラジル、メキシコ、中国など世界9都市に海外事務局を開設した。同観光局が海外に支局を持つのは今回が初めて。日本事務局の運営は観光マーケティングなどを手がけるコネクトワールドワイドに業務委託し、同社のマージョリー・デュエイ氏が日本代表を務める。

日本とシカゴを結ぶアクセスは、全日本空輸(ANA)が今年6月29日から1日1便増やしてダブルデイリー化することを決定。日本航空、ユナイテッド航空、アメリカン航空のそれぞれ1日1便と合わせ、ワイドボディ機が毎日5便飛ぶ充実したアクセス環境が整う。

2014年には米国最大のトラベルトレードショー「インターナショナル・パウワウ(POWWOW)」がシカゴで開催されることが決定しており、シカゴの観光業は大きく飛躍するチャンスを迎えている。

日本市場向けテーマは「ぶらっと・シカゴ」 ヤング女性とシニア富裕層を主力ターゲット

シカゴ観光局では日本向けのプロモーションテーマとして「ぶらっと・シカゴ」を決め、歩くことで見つかる街の魅力を前面に打ち出していく。切り口も多彩にし、博物館や美術館を巡る「アート」、全米から食通が集まる「グルメ」、ジャズやミュージカルを楽しむ「カルチャー」、一流ブランドが揃う「ショッピング」、野球やアイスホッケーを観戦する「スポーツ」――などを提案していく。

また、シカゴの充実したホテル群も強みにする。世界トップブランドが揃い、上質な滞在が楽しめることや、ニーズや予算に合わせてホテルが選べるラインナップの豊富さをアピールしていく。シカゴのホテル客室数は3万5000室を超え、今後も新

規ホテルが続々と登場する予定。英ヴァージン・グループが初めて展開する「ヴァージン・ホテル」の1号店もシカゴに登場し、今年中のオープンを予定している。

これらの魅力を活用し、日本市場では若い女性層とシニアを中心としたラグジュアリー層を2大ターゲットにしていく。女性に向けてショッピングやスパ体験、グルメ探訪などを提案し、とくに「新しいアメリカを探しているリピーター層を狙っていききたい」(シカゴ観光局のキャスリーン・M・ドマニコ観光&レジャーセールス担当副社長)考え。また、ラグジュアリー層に向けては文化や芸術体験を軸に、ジャズやブルースなどの音楽鑑賞、美術館・博物館めぐり、スポーツ観戦などを提案していく。

今後、消費者向けの大々的な広告展開などは予定していないものの、雑誌やインターネットなどを使ったメディア露出を高め、“観光地シカゴ”の浸透を図っていく。また、旅行会社に向けたセールス/サポート活動も強化し、パッケージ商品の造成支援をおこなっていく。

なお、シカゴ観光局日本事務局の連絡先は以下の通り。

▼住所=〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-12-1 渋谷マークシティウエスト22階(株)コネクトワールドワイドジャパン内
▼電話=03-4360-5684▼FAX=03-3323-6698▼日本語ホームページ=http://www.ChooseChicago.jp

【ホテル】

★マリオットとタイのTCCホテルズが提携開始 ブランド変更や改装などに5億ドルの予算計上

マリオット・インターナショナルは、タイでホテル事業などを手がけるTCCホテルズ・グループと提携することを決め、タイ国内におけるホテル展開を強化する。TCCホテルズが運営する2軒のホテルをマリオットブランドに変更するほか、マリオットがすでに展開する既存の5軒についても改装等に投資し、タイ国内でのプレゼンスを強化する。

ブランド変更は2016年中に実施し、TCCがバンコク市内で展開する「インペリアル・クイーンズ・パーク・ホテル・バンコク」を「バンコク・マリオット・ホテルズ・クイーンズ・パーク」に、さらにプーケット島の「インペリアル・アマダス・プーケット・ビーチ・リゾート」を「プーケット・マリオット・リゾート&スパ・ナイヤンビーチ」に変更する。

既存ホテルの改装に関する詳細は発表されていないものの、マリオットが展開する「マリオット・ホアヒン・リゾート&スパ」や「JWマリオット・パタヤ・リゾート&スパ」、「ザ・リッツ・カールトンバンコク」などで改装、または拡張工事をおこなう方針。ブランド変更や改装等にかかる費用は5億米ドルを予定している。

今回の業務提携により、マリオットが現在タイ国内で保有する客室1000室に加え、約3000室が追加されることになる。同社ではこれを2017年までに7000室まで拡大する計画で、東南アジア地域の拠点としてタイ市場の成長を図る。

【訂正】

本紙2月5日号「JAL第3四半期、欧米・東南アジア好調売上3.6%増」の記事中、ジャルパックについての記事内容に誤りがありました。「営業利益1249億円」の部分で、「売上高1249億円」に訂正します。



<http://wingnews.net/t-daily/data2013/WTHawaii2013.pdf> (PDF:約30MB)